

平成24年度学力向上に向けた取組

函館市立 深堀中 学校 学級数 11

視点1：アプローチの視点に基づいた、「組織的」で「つながり」（学びの連続性・学校内外の連携）をもった取組

重点教育目標

やる気がひかる生徒の育成

A 各教科・領域等における系統性や、他の教科・領域等との関連に配慮する

B 長期的な見通しをもって、学習内容を確実に定着させる

C 校内研究の進め方を見直す

D 授業公開や外部への公開・発信を生かす

取組の概要

- 1 取組のきっかけ**
2年研究の2年次ということで、昨年度行っていた「一人一授業公開」を継続するとともに、今年度は外部への公開も見据えて授業改善に努めることとした。授業内容としては昨年までの「学習の土台となる人間関係づくり」や「生徒のやる気の喚起」を引き続き実践しながらも今年度は、「学び合い学習」や「家庭学習の習慣化」に力を入れることで、校内研究としてより大きな成果を期待したい。
- 2 取組の位置付け**
教務部の中の研究係が中心となり、全体研修会を土台としながら先生方に提案し、取組を呼びかけている。
- 3 取組の方法**
「学び合い学習」については、各教科において「学び合い」のあり方を模索し、それを授業において意図的・継続的に実践・検証していくことで、成果を上げたいと考えている。「一人一授業」とタイアップしながら、それぞれが授業を公開、課題の検証にあてている。
「家庭学習の習慣化」については、1カ月に2週間ほどのGW（がんばりウィーク）を設け、教師から課題を与え、ノートに学習させて提出させている。課題については5教科で、5～10分で取り組めるものとしている。あわせて、学習記録表も（どのくらいの時間、何を勉強したか記録）記入・提出させている。

取組の成果と課題等

- **取組の成果**
 - ・「学び合い学習」について～
授業実践を通して、各教科における「学び合い」のあり方を探ることができた。教え合いと学び合いの違いを探りながら、さらにはTPOに合わせた学習形態（環境）、課題提示のあり方、話し合いのルールの内容や決め方、またその土台となる“人間関係”の構築の大切さについて改めて確認することができた。“人間関係”の部分についてはQ-Uを大いに活用し、実態把握やその後の指導に生かすことができた。
 - ・家庭学習の習慣化について～
家庭学習週間（がんばりウィーク）を年に19週設け、課題提出だけでなく生活記録を提出させることにより、生徒一人一人の生活スタイルを把握し、適切なアドバイスに役立てることができた。課題提出については全員提出を目指して継続して取り組んだ結果、ほとんどの生徒が提出するようになり、中には課題以外にも自ら家庭学習に取り組んでくる生徒も見られるようになった。
 - ・公開授業研について～
10月26日（金）に公開授業研究会を行い、取り組みの中間検証を行うことができた。全教科とも「学び合い」とどまらず、生徒の学習意欲喚起のための工夫等についても各教科の特性を生かしながら検証することができた。同時に、更なる効果的な評価のあり方や“家庭学習をどう生徒の自主性に任せる形に持っていくか”など、課題も確認できたので、今後引き続き研修を深めたいと考える。
- **教育課程検証の方法**
 - ・学校評価を通して、保護者、生徒、教職員の評価を数値化・グラフ化し、改善点を検討した上で次年度に生かしていく。
 - ・生徒の変容について年に複数回Q-Uアンケートを実施し、学級への所属感、学校生活への意欲の変化等を詳しく検証している。
 - ・各教科において、「学び合い学習」や家庭学習週間を取り入れたことによる生徒の変化、成果や課題について今後検証する予定である。
 - ・各分掌や学年において、年度途中で複数回、また年度末に活動の反省や改善点について検証している。またそれらの反省や改善点等は職員会議にて全体に共有している。